

オーストリア共和国 セルデン町との交流事業

石打丸山スキー場は、昭和24年に開設された歴史のある日本有数の大規模スキー場であり、トニーザイラー氏などオーストリアが生んだスキーの名手が滑ったスキー場でもあることから、昭和56年より石打丸山観光協会と地元自治会の石打区が中心となり国際交流の準備を進め、昭和57年4月24日に調印を行い、以来、オーストリア大使杯の共催や国際親善交流団の派遣など交流活動を展開している。

オーストリア共和国 セルデン町の概要

セルデン町は、インスブルックから南へ車で1時間半、山間へ入ったエッツタールと呼ばれる溪谷の中心で、人口約3千人の山岳リゾート地帯である。四方を高く険しい3000m級の山に囲まれた高地にあり、冬はスキーやアイススケート、クロスカンントリー、夏は登山やハングライダー、氷河スキーなど山岳スポーツが楽しめ、ヨーロッパ各国から多くの観光客が訪れている。

1. 交流の経過

昭和57年4月24日（1982年）

塩沢町において姉妹都市提携

昭和57年4月29日

国際親善訪奥団を派遣

昭和58年4月2日

駐日オーストリア大使夫妻を迎え、石打丸山スキー場においてオーストリア大使杯スラローム大会を開催（以後毎年開催）

昭和58年8月19日

新潟県日奥協会設立（以後毎年定期総会を開催）

昭和58年8月21日

中学生を中心とした教育派遣団を派遣

昭和59年3月31日

駐日オーストリア大使来町

昭和59年5月23日

オーストリア大使公邸レセプションに招待を受ける

昭和60年3月22日

訪日オーストリア代表団来町

昭和61年2月2日

日本・オーストリアアルペンスキー友好75周年記念行事のため訪奥（町長、議長）

昭和61年3月22日

日本・オーストリアアルペンスキー友好75周年記念チロル州訪日団来町

昭和62年7月21日～8月24日

ジュニアスキーチーム、セルデンで強化合宿

昭和62年8月

セルデン集中豪雨による大災害発生

昭和62年10月

セルデンの大災害に対して石打区が中心となって災害見舞い募金活動を実施。在日オーストリア大使館を通じて132万円を贈る。

セルデンでは決壊復興した橋の名称を「塩沢橋」と命名、友情の記念碑が橋の近くに建立された。

昭和62年12月28日～昭和63年2月6日

オーストリア国立スキー学校（セルデン）よりスキー教師2名招請

平成元年12月24日～平成2年1月3日

町長、小野塚石打区長ら3名が、オーストリア年末テレビ特別番組出演のためセルデンへ

平成3年2月17日

チロル州渉外局長、セルデン町長ら一行6名が冬季国体開会式に列席

平成4年4月21日～30日

姉妹都市提携10周年記念事業として、町民を中心とした88名の国際親善訪澳団がセルデン町を訪問し、歌舞伎の披露をはじめ相互文化交流を行い、ウイーンの大統領府にワルトハイム大統領を表敬訪問

平成5年2月26日～29日

セルデンでの姉妹都市提携10周年記念事業の答礼として、セルデン町より代表団7名が来町し、県庁への表敬訪問、町の交流事業への参加等を行う

平成8年2月25日

駐日オーストリア大使ご一家来町

平成9年2月15日

駐日オーストリア政府観光局長来町

平成9年2月16日

駐日オーストリア大使ご一家来町

平成9年10月20日～23日

塩沢町合併40周年記念式典に招待したセルデン町長シップフ氏他8名が来町。日澳友好国会議員連盟顧問の参議院議長斎藤十朗氏を表敬訪問。塩沢町の木である「こぶし」を韓国、ニュージーランドの訪問団と共に記念植樹。

平成12年5月

塩沢町長へチロル州から観光功労賞の勲章が授与される。セルデン町長他2名が来町し、伝達式とチロル州の観光に関する講演が行われる。

平成14年4月

姉妹都市盟約20周年記念事業として、塩沢町長を団長とした総勢18名の訪壩団を派遣し友好を深める。セルデン町の他チロル州庁舎を表敬訪問し、チロルの観光事情などについて説明を受ける。

2. 印象に残るエピソード

平成4年に姉妹都市提携10周年を記念して、町民総勢88名の訪壩団を派遣。郷土歌舞伎、茶道、華道、日本舞踊などを披露し、文化交流を行っている。昭和62年10月には、姉妹都市セルデンの集中豪雨による大災害に対して石打区（自治会）が中心となって災害見舞い募金活動を実施。セルデンでは決壊復興した橋の名称を「塩沢橋」と命名し、友情の記念碑を橋の近くに建立している。また、平成9年の塩沢町合併40周年記念事業に、セルデンよりシェップフ町長ら代表団が来町、「友情の鐘」が贈呈され、石打丸山スキー場山頂に建立し、新たな交流の地域シンボルが誕生している。このように、地域レベルでの深い交流もはじまっている。